

第4章 火災による死傷者の状況

1 火災による死者

○ 自損を除いた死者のうち高齢者の割合は7割近くを占めています。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による死者」とは、火災に起因して死亡した者をいい、「自損行為」とは、放火による自損行為のことをいいます。

ア 発生状況

火災による死者の年別発生状況は表 4-1-1 のとおりです。

平成 28 年中の死者発生状況をみると、全火災件数の 1.9%にあたる 77 件の火災で 83 人が死亡しており、前年と比較して死者の発生した件数は 10 件減少し、死者数は 12 人減少しています。

表 4-1-1 年別発生状況（最近 10 年間）

年 別	全 火 災 件 数	火 災 の 発 生 し た 件 数	死 者 の 発 生 率 (%)	死 者 数 合 計	の 自 損 行 為 に よ る 死 者 数 外	年 齢 区 分					
						乳 幼 児	未 成 年	成 人	前 期 高 齢 者	後 期 高 齢 者	不 明
19 年	5,796	132	2.3	149(35)	114	2(-)	3(-)	75(27)	28(5)	40(2)	1(1)
20 年	5,762	120	2.1	128(27)	101	2(-)	1(-)	54(18)	21(5)	50(4)	-(-)
21 年	5,598	118	2.1	129(31)	98	1(-)	4(-)	65(22)	16(6)	42(2)	1(1)
22 年	5,086	93	1.8	105(16)	89	2(-)	6(-)	39(10)	25(2)	31(2)	2(2)
23 年	5,340	78	1.5	84(14)	70	-(-)	1(-)	37(10)	12(2)	34(2)	-(-)
24 年	5,088	103	2.0	115(21)	94	3(-)	2(1)	44(15)	23(4)	42(1)	1(-)
25 年	5,190	80	1.5	87(10)	77	-(-)	1(-)	30(7)	16(2)	40(1)	-(-)
26 年	4,804	87	1.8	94(16)	78	-(-)	-(-)	21(7)	25(8)	47(-)	1(1)
27 年	4,430	87	2.0	95(16)	79	2(-)	-(-)	34(10)	24(3)	35(3)	-(-)
28 年	3,980	77	1.9	83(15)	68	1(-)	-(-)	28(9)	28(6)	24(-)	2(-)

注 1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

2 () は「自損行為による死者」数を内数で示したものです。

年齢区分別と火災種別、男女別の死者発生状況は、表 4-1-2 のとおりです。

男女別発生状況をみると、男性が 51 人（61.4%）、女性が 32 人（38.6%）となっており、男性が 6 割以上を占めています。自損行為による死者を除いて年齢区分別にみると、男性は前期高齢者の比率が高く、女性は後期高齢者の比率が高くなっています。

表 4-1-2 年齢区分と火災種別、男女別死者発生状況

死 者 の 年 齢 区 分		火 災 種 別								男 女 別	
		合 計	建 物 火 災					車 両	そ の 他	男 性	女 性
			小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や				
火 災 件 数		77	72	15	14	32	11	3	2	性	性
死 者 数	合 計	83	75	17	15	32	11	6	2	51	32
	自 損 行 為 以 外	68	65	17	13	26	9	2	1	44	24
	乳 幼 児	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-
	未 成 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	成 人	19	19	3	6	9	1	-	-	14	5
	前 期 高 齢 者	22	22	8	4	9	1	-	-	15	7
	後 期 高 齢 者	24	24	6	3	8	7	-	-	13	11
	不 明	2	-	-	-	-	-	2	-	1	1
自 損 行 為 に よ る 死 者		15	10	-	2	6	2	4	1	7	8

イ 自損行為による死者

「自損行為による死者」15 人の発生状況について男女別をみると、男性が 7 人（46.7%）、女性が 8 人（53.3%）となっており、女性が 5 割を超えています。

年齢別では成人が 9 人（60.0%）、次いで前期高齢者が 6 人（40.0%）となっています。

自損行為による死者を火災種別ごとにみると、建物火災での死者が 10 人（66.7%）、建物以外の火災で 5 人（33.3%）となっています。建物火災での死者 10 人のうち 6 人は住宅や共同住宅の自宅で灯油等をかぶり、自らライター等で火をつけて自損を図っています。建物火災以外では、車両内や敷地内において灯油等をかぶり自損を図ったものです。

以下、「自損行為による死者」15 人を除いた 68 人について分析します。

ウ 年齢別発生状況

年齢区分別に死者の発生状況をみると、高齢者の死者は46人（67.6％）で、自損行為を除く死者数の7割近くを占めています。

エ 火災種別・程度別発生状況

火災種別ごとの死者発生状況をみると、68人のうち建物火災で65人（95.6％）、建物以外で3人（4.4％）発生しています。建物火災による死者のうち、部分焼以上に延焼拡大した火災（以下「延焼火災」という。）による死者は56人（86.2％）発生しています。

オ 月別火災件数と死者発生状況

月別の火災件数と、自損行為を除いた死者の発生状況を表したのが表4-1-3です。

1月から3月及び12月は火災の多発する時期で、この期間の火災件数は1,520件（38.2％）で、死者数は31人（45.6％）となっており半数近くを占めています。

表 4-1-3 月別火災件数と死者発生状況

項 目		月 合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火 災 件 数		3,980	434	345	344	317	323	308	303	262	259	353	335	397
死 者 数	合 計	68	10	5	12	11	2	3	4	-	8	4	5	4
	高齢者 以 外	22	5	1	2	2	-	2	2	-	5	-	1	2
	高齢者	46	5	4	10	9	2	1	2	-	3	4	4	2
	高齢者の占 める割合 (%)	67.6	50.0	80.0	83.3	81.8	100.0	33.3	50.0	-	37.5	100.0	80.0	50.0

注1 火災件数は、治外法権火災を除いています。

2 死者数は、自損行為による死者を除いています。

3 「高齢者以外」の中には「年齢不明」2人を含めています。

カ 時間別発生状況

時間別で死者の発生状況をみると、死者が発生した火災の出火時間帯で最も多いのは、1時台と4時台で各7人（10.3％）発生しています。

(2) 出火原因別発生状況

発火源別の経過・火災種別死者発生状況についてみたものが表 4-1-4 で、年齢区分と発火源別にみたものが表 4-1-5 です。

表 4-1-4 発火源別の経過・火災種別死者発生状況

発火源		合 計	経過								火災種別						
			火 源 が 落 下 す る	可 燃 物 が 接 触 す る	放 火	不 適 当 な 処 に 捨 て る	電 線 が 短 絡 す る	接 炎 す る	そ の 他	不 明	建物					車 両	そ の 他
											小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や		
合 計		68	9	9	9	3	2	2	6	28	65	17	13	26	9	2	1
たばこ		12	9	-	-	3	-	-	-	-	12	-	3	7	2	-	-
電気設備機器	電気ストーブ	6	-	5	-	-	-	-	-	1	6	1	-	4	1	-	-
	屋内線	2	-	-	-	-	1	-	1	-	2	1	-	1	-	-	-
	投光器	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	テレビ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
	蓄電池	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
ガス設備機器	ガステーブル	6	-	3	-	-	-	2	-	1	6	-	-	1	5	-	-
	ガスストーブ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-
	ガスこんろ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-
	簡易型ガスこんろ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
炭 火		1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
マ ッ チ		1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
灯 明		1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
不 明		33	-	-	8	-	-	-	-	25	31	14	7	10	-	2	-

注 自損行為による死者を除いています。

表 4-1-5 年齢区分と発火源別死者発生状況

年 齢 区 分	合 計	発 火 源													
		た ば こ	電 気 設 備 機 器					ガ ス 設 備 機 器				炭 火	灯 明	マ ツ チ	不 明
			電 気 ス ト ー ブ	屋 内 線	投 光 器	テ レ ビ	蓄 電 池	ガ ス テ ー プ ル	ガ ス こ ん ろ	ガ ス ス ト ー ブ	簡 易 型 ガ ス こ ん ろ				
合 計	68	12	6	2	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	33
乳 幼 児	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
未 成 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
成 人	19	6	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	1	1	8
前 期 高 齢 者	22	3	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	15
後 期 高 齢 者	24	3	6	-	-	-	1	5	-	-	1	-	-	-	8
不 明	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

注 自損行為による死者を除いています。

ア たばこ

たばこによる火災の死者は 12 人（17.6％）で、前年と比べて 4 人減少しています。

年齢別では成人が 6 人（50.0％）、前期高齢者及び後期高齢者が各 3 人（25.0％）となっています。

経過をみると、「火源が落下する」が 9 人（75.0％）と 8 割近くを占めています。

「火源が落下する」のうち、「寝たばこ」によるものが 2 人（22.2％）発生しています。

たばこが出火原因である場合、概ね無炎燃焼を継続してから有炎となり燃え上がるため、火種の落下直後は気付かない場合が多いと考えられます。

事例 たばこにより出火し 1 人が死亡した火災（2 月・練馬区）			
構造・用途等	耐火造 2/0 住宅	出火階・箇所	2 階・居室
焼 損 程 度	建物半焼 1 棟 36 m ² 等焼損 死者 1 人		
この火災は、火元者（70 歳代男性）が喫煙後、火種が完全に消えていないたばこをごみ箱の中に捨てたことでごみ箱内の紙くずなどに着火し、出火したものです。火元者は普段から灰皿の中に溜まった吸い殻をごみ箱に捨てるなどしており、喫煙管理は不十分でした。火元者は出火建物 2 階の廊下で発見され、消防隊により救助されましたがその後死亡が確認されました。			

イ 電気設備機器

電気設備機器による火災の死者は、11 人（16.2％）発生しており、このうち「電気ストーブ」が 6 人（54.5％）、「屋内線」が 2 人（18.2％）などとなっています。

経過をみると、電気ストーブに衣類や布団が接触して出火したものや、屋内線が何らかの理由で短絡し出火したものなどとなっています。

ウ ガス設備機器

ガス設備機器による火災の死者は、9人（13.2%）発生しており、このうち「ガステーブル」が6人（66.7%）、「ガスストーブ」、「ガスこんろ」及び「簡易型ガスこんろ」が各1人（11.1%）となっています。

経過を見ると、ガステーブルを使用中に着衣に着火し出火したものや、ガスストーブの上部に干していた衣類が落下し出火したものなどとなっています。

2 火災による負傷者

○ 火災による負傷者は前年と比べて 26 人増加し、負傷者の発生率も 1.6 ポイント増加しました。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による負傷者」とは、火災に起因して負傷した人をいいます。

ア 発生状況

火災による負傷者の年別発生状況は表 4-2-1 に示すとおりです。

表 4-2-1 年別発生状況（最近 10 年間）

年 別	合 計	負 傷 者 区 分			
		一 般 人			消 防 活 動 従 事 者
		小 計	自損行為以外	自 損 行 為	
19 年	1,230(12)	1,207(12)	1,191(8)	16(4)	23
20 年	1,187(8)	1,162(8)	1,141(8)	21(-)	25
21 年	1,025(9)	1,003(9)	983(8)	20(1)	22
22 年	932(9)	913(9)	897(7)	16(2)	19
23 年	962(13)	944(13)	918(11)	26(2)	18
24 年	832(7)	814(7)	802(7)	12(-)	18
25 年	781(3)	763(3)	744(3)	19(-)	18
26 年	790(8)	777(8)	761(7)	16(1)	13
27 年	827(4)	815(4)	804(4)	11(-)	12
28 年	853(8)	842(8)	831(7)	11(1)	11

注1 消防活動従事者とは、消防職員、消防団員などの消防活動等に従事した者の区分です。

2 ()内は、30日死者(火災による負傷者のうちで、48時間を超え30日以内に死亡した人)を内数で示したものです(「30日死者」の項を参照)。

平成 28 年中に、負傷者が発生した火災は 604 件で、853 人が負傷しており、前年と比べて負傷者の発生した火災件数は 2 件増加し、負傷者は 26 人増加しています。このうち一般人の負傷者は 842 人(98.7%)で前年と比べて 27 人増加し、消防活動従事者(消防職員・消防団員などの消防活動等に従事した者)が 11 人(1.3%)で、1 人減少しています。

また、負傷者の発生率(負傷者の発生した火災が、総火災件数に占める割合)は 15.2%で、前年と比べて 1.6 ポイント増加しています。

3人以上の負傷者が発生した火災は46件で、205人が負傷しており、前年と比べて、火災件数は2件減少しましたが、負傷者は12人増加しています。これらの火災では、住宅や共同住宅から出火し、避難の際に廊下や階段などで煙を吸って負傷するケースや、初期消火の際に負傷するケース、更に就寝中で発見が遅れ、煙を吸うなどして負傷するケースが多くみられます。なお、ここからは火災による負傷者のうち、消防活動従事者（11人）及び自損行為による負傷者（11人）を除いた831人について分析します。

イ 火災種別・年齢区分と受傷程度の状況

火災種別と年齢区分別に受傷程度をみたのが表4-2-2です。

火災種別ごとに負傷者の発生数をみると、建物火災での負傷者は754人（90.7%）と大部分を占めています。さらに建物火災を火災程度別でみると、部分焼以上の延焼火災では344人（45.6%）発生し、建物火災の半数近くを占めています。

受傷程度別でみると、「軽症」が531人（63.9%）で最も多く、負傷者の6割以上を占めています。

火災による負傷者を、「高齢者」と「高齢者以外」でみると、「高齢者以外（不明を含む。）」は578人（69.6%）で、「高齢者」は253人（30.4%）となっており、「高齢者」の割合は前年と比べて1.8ポイント減少しています。

表4-2-2 火災種別・年齢区分別受傷状況

受 傷 程 度	合 計	火 災 種 別									年 齢 区 分				
		建 物					車 両	船 舶	航 空 機	そ の 他	乳 幼 児	未 成 年	成 人	前 期 高 齢 者	後 期 高 齢 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
合 計	831	754	39	57	248	410	17	2	19	39	11	50	517	120	133
重 篤	18	15	2	-	10	3	1	-	-	2	1	-	8	5	4
重 症	96	90	6	8	37	39	1	1	-	4	-	1	46	20	29
中 等 症	186	175	7	16	55	97	4	1	-	6	4	13	112	28	29
軽 症	531	474	24	33	146	271	11	-	19	27	6	36	351	67	71

注 消防活動従事者及び自損行為による負傷者を除いています。

事例 1 多数の負傷者が発生した火災（8月・杉並区）			
構 造 ・ 用 途 等	その他 路上	出火階・箇所	道路
焼 損 程 度	ガソリン若干焼損 負傷者 15 人		
この火災は、男性（60 歳代）が住宅内から路上に向けて手作りの火炎ビンを投げつけ、ビンが破損した際に出火したものです。火災当日は地域の祭りが行われており、見物客が路上に多数いたため負傷者が計 15 人発生しました。			

(2) 出火原因別発生状況

ア 出火原因別受傷時の状態

出火原因別及び負傷者の男女別で受傷時の状態をみたのが、表 4-2-3 です。

出火原因別にみると、「ガステーブル等」が 166 人（20.0%）で最も多く、次いで「たばこ」が 90 人（10.8%）、「放火」が 62 人（7.5%）などとなっています。

また、これら出火原因ごとの火災 1 件あたりの負傷者発生率は、それぞれ「ガステーブル等」が 45.7%（火災件数 363 件）、「たばこ」が 15.4%（火災件数 586 件）、「放火」が 7.0%（火災件数 881 件）となっています。

受傷時の状態別でみると、「ガステーブル等」では「家事従事中」に受傷したものが 59 人（35.5%）で最も多く、次いで「初期消火中」は 48 人（28.9%）などとなっています。

「たばこ」では「初期消火中」が最も多く 31 人（34.4%）で、次いで「就寝中」が 18 人（20.0%）などとなっています。

「放火」では「初期消火中」が 13 人（21.0%）、次いで「就寝中」が 9 人（14.5%）などとなっています。

表 4-2-3 出火原因別受傷時の状態

受傷時の状態	合計	主な出火原因											男女別	
		ガステーブル等	たばこ	放火	大型ガスこんろ	電気ストーブ	ライター	ロウソク	電気こんろ	コード	大型ガスレンジ	その他・不明	男 性	女 性
合計	831	166	90	62	51	39	32	24	18	17	15	317	490	341
初期消火中	229	48	31	13	21	9	3	9	3	6	7	79	168	61
作業中	107	9	-	1	16	2	6	4	1	2	7	59	72	35
就寝中	89	9	18	9	2	14	1	-	5	3	-	28	49	40
家事従業中	80	59	2	-	-	-	2	3	2	2	-	10	22	58
避難中	73	7	11	6	3	6	-	1	2	1	-	36	43	30
休憩中	51	6	7	-	2	-	11	-	1	3	1	20	31	20
飲食中	15	6	-	-	1	-	2	-	-	-	-	6	8	7
見物中	7	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	1	6
救助中	5	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	1	4	1
火災通報中	4	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	1	3	1
その他・不明	171	19	20	29	6	7	7	7	3	-	-	73	89	82

注 消防活動従事者及び自損行為による負傷者を除いています。

男女別では、男性が 490 人（59.0％）、女性が 341 人（41.0％）と男性の受傷割合が高くなっています。

受傷時の状態を男女別でみると、男女共に「初期消火中」の受傷割合が最も高くなっています。次いで男性は「作業中」、「就寝中」の受傷割合が多く、女性は「家事従事中」、「就寝中」の受傷割合が多くなっています。

イ 受傷時の状態と受傷の理由

受傷の理由で多いものとしては、「火に接近しすぎた」が 123 人（14.8％）、「消火に手間取った」が 116 人（14.0％）、「自ら消火する能力がなかった」が 81 人（9.7％）などとなっています。

主な事例としては、初期消火中に燃焼物に接近しすぎて火災にあおられる事例や、消火器を使用せずタオルや座布団を被せたり、油に水をかけるなどしたために火災が拡大したり、完全に消火することができず受傷する事例などがあります。これらは、火災を比較的早期に発見し、初期消火をしているにもかかわらず、その手段や方法が適切でなかったために受傷してしまった事例です。

「自ら消火する能力がなかった」ものは、出火時に家事従事中（調理中等）で着衣着火などにより受傷したものです。

事例 2 避難後、建物内に戻り負傷した火災（8 月・中野区）			
構造・用途等	防火造 2/0 店舗	出火階・箇所	1 階・飲食店舗
焼 損 程 度	建物全焼 2 棟 211 m ² 等焼損 負傷者 1 人		
この火災は、火元者（40 歳代男性）が吸ったたばこの火種が落下し出火したものです。火元建物に隣接する建物の 3 階住宅部分にいた女性（80 歳代）が火災に気がついた後に屋外に避難しましたが、貴重品を取りに再び屋内へ戻った際に煙にまかれ退路を失い、消防隊により救助されました。 建物は火元建物からの延焼により全焼し、女性は煙にまかれた際に気道熱傷により中等症を負っています。			

(3) 30 日死者

「30 日死者」とは、火災による負傷者のうちで、48 時間を超えて 30 日以内に死亡した人のことをいいます。平成 28 年中は自損行為による 1 人を除いて、7 件の火災で 7 人が亡くなっており、前年と比べて 3 人増加しています。

自損行為を除く 30 日死者 7 人の内訳は、前期高齢者が 3 人（42.9％）、成人が 3 人（42.9％）、後期高齢者が 1 人（14.3％）となっています。